

## 学生とともに進めるFD

代表企画者：梅村 修（追手門学院大学・基盤教育機構／一貫連携教育機構）

共同企画者：木野 茂（立命館大学・共通教育推進機構）、服部憲児（京都大学・教育学研究科）、村山孝道（京都文教大学・教務課）、天野憲樹（岡山大学・教育開発センター）、吉田 博（徳島大学・教育改革推進センター）、山本堅一（追手門学院大学・教育開発センター）、長谷川伸（関西大学・商学部）、堀江育也（札幌大学・地域共創学群）、鹿島 我（京都光華女子大学・短期大学部）

話題提供者：木野 茂（立命館大学）、天野憲樹（岡山大学）、堀江育也（札幌大学）、長谷川伸（関西大学）、鹿島 我（京都光華女子大学）、吉田 博（徳島大学）、山本堅一（追手門学院大学）、服部憲児（京都大学）

司会者：梅村 修（追手門学院大学）、村山孝道（京都文教大学）

### 企画の趣旨

「学生FD」とは教育改善を目指す学生の主体的な活動であるが、それを大学の側から支援する動きがFD義務化以後広がっている。2009年から年2回行われている「学生FDサミット」は全国における学生FD活動の交流の場であるが、その拡大にともない活動のあり方から教職員との関係に至るまで、新たな課題も生まれている。今回はその中から「学生発案型授業の意義と可能性および課題」と「学生FD活動の振り返りと今後の可能性」という二つのテーマで参加者とともに率直な意見交換を行いたい。

### 1. 学生FDサミット2013夏の報告

木野 茂

2009年夏に始めた学生FDサミットは2013夏で8回目となったが、参加者は当初の100名から450名を超えるまでになり、学生FDを始めた大学も当初の数えるほどだったのが今や60大学にも広がった。これに伴い、学生FDの組織的なあり方や具体的な活動内容も各大学の事情に応じて多様化してきた。立命館大学で開催した2013夏のサミットはこのような学生FDの新たな段階を見据えて企画した。

### 2. 学生発案型授業の意義と可能性および課題

学生発案型授業の先駆的な例は岡山大学で10年ほど前からあるが、最近いくつかの大学でも取り組みが散見される。そこで学生FDとしての意義とその課題について考える。

#### 岡山大学における学生発案型授業

天野憲樹

岡山大学では、学生FD活動の一環として、平成15年以来学生発案型授業に取り組み続け、これまでに9科目の学生発案型授業を開講した。こうした学生発案型授業は学生のニーズに応える以上の意義を持つ。学生と教員が協働して授業を創作する過程から、両者が双方の視点で授業を認識できるようになるからである。しかし、時に両者の意見が対立し、打開策を見い出しにくい場合もある。このような学生発案型授業の意義と課題を報告する。

#### 札幌大学における学生発案型授業

堀江育也

本学の学生発案型授業は活動3年目に始まった。本学にはおこし隊と呼ばれる、学生FDが組織されており、スキサポと言う名の下に、授業案の募集から、選考、シラバス作りなど行っている。採択された授業案は二年間実施し、募集は一年ごと行っており、来年、新たな授業案を募集する予定である。具体的な実施方法や、履修状況等について報告する。

#### 関西大学における学生による科目提案型授業

長谷川 伸

2013年度春学期開講の学生提案科目「関大生の私にできること～被災地（大槌町）に向き合う～」(60名規模)は、科目提案学生委員会社会性チームの学生が企画運営にあたった。この被災地に向き合うアクティブラーニング授業は、授業評価で全学平均4.0未満に対して4.5と非常に高い総合評価を得、履修生による大槌町スタディ&グルメツアーなどを生み出している。この学生提案科目の意義と課題を報告する。

#### 京都光華女子大学短期大学部における学生発案型授業

鹿島 我

京都光華女子大学短期大学部2012年後期プレゼン大会のテーマ「高知県嶺北地域の活性化」において「インターンシップの開催とその単位化」が学生リーダーグループから提案された。「学生FD=優秀な学生」というイメージとは正反対の学生から提案された企画が嶺北地域の協力を経て2014年度の正式単位化までどのような過程を辿ってきたのか報告する。

### 3. 学生FD活動の振り返りと今後の可能性 (吉田 博、山本堅一、服部憲児)

大学教育の質保証、FDの実質化が強く叫ばれる今日において、学生のFDへの参画が注目を集めており、学生FD活動が急速に広がってきた。これまでの学生FD活動は、学生の声を教育改善に活かすこと、教員・職員・学生の三位一体でFD活動を進めることなど、学生がFDに参画するという考え方を、全国に普及させることにおいて、大きな役割を担ってきた。しかし、これからの学生FD活動は、学生FD活動の質を高め、各大学のFDにいかに関与できるかが問われる第二段階に入っていると指摘されている(木野ほか2013)。そこで、これまでの学生FD活動を振り返り、活動の成果と課題について、共有・整理することで、今後の学生FD活動の質向上に繋げるための創造的な議論を行いたい。

#### (1) 個人による現状把握(振り返り・課題の抽出)

##### ①すでに学生FD活動を行っている参加者

これまで実施してきた自身の学生FD活動を振り返り、成果と課題をまとめる。

##### ②これから新しく学生FD活動を始めたいと考えている参加者

自大学の教育における課題、学生の現状、自身の立場などをまとめる。可能であれば、今後実施してみたい学生FD活動を書き出す。

#### (2) グループでの現状共有と課題の検討

①、②混成のグループを作り、学生FD活動の課題、教育・学生に関する現状や課題を共有し、活動の質を向上させるために、サポートする教職員、学生FD活動を行う学生、それぞれの立場から取り組めること、取り組むべきことについて意見交換を行う。

#### (3) 全体共有

各グループにおいて出された意見を参加者全体で共有する。

#### 参考文献

木野茂ほか(2013);学生とともに進めるFD, 大学教育学会第35回大会発表要旨集録, 18-19.